

ぶどうの木にとどまる Abiding in the Vine

IHOP大学 講師 マイク・ビッケル師 三位一体との親密さ
ヨハネ13章～17章シリーズ、ヨハネ15:1-6

あなたの美しさを喜びとして、あなたの喜びの川から飲ませてください。(詩編36:8; 37:4)

I. 神の愛と火の領域

A. ヨハネ13-17章でイエスが弟子たちに語られる第一のテーマは、神の愛と栄光です。イエスの主な目的は、神の神聖な愛の啓示と、イエスが地の基ができる前から父と共に持っておられた栄光の体験に、私たちを導くことなのです。私たちの運命は、永遠に神との交わりの中に留まることです。

9 神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。(1コリント1:9)

3 ...私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。(1ヨハネ1:3)

22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。(ヨハネ17:22)

B. 世の愛が冷え続ける中、三位一体を私たちのモデルとして理解し、燃え続ける火である神の共同体に私たちが親しく関わることは、大きなプレッシャーがかかる時代において、神の愛の豊かさの中で教会の心を備えることになります。

C. ヨハネ13-17章で、イエスは、私たちが経験し表現することを望んでいる神の愛の5つの要素を完全に歩むために、教会がまず、神と関わることを呼びかけ、備えさせます。

1. 神が神を愛する愛 (ヨハネ13:3; 14:31; 15:9, 12; 17:23-24, 26)
2. 私たちに対する神の愛 (ヨハネ13:1, 23, 34-35; 14:21, 23; 15:9, 12; 16:27; 17:23)
3. 私たちの中にある神への愛 (ヨハネ14:15, 21, 24, 28; 15:12, 17; 16:27; 17:26)
4. 私たちの中にある神の互いへの愛 (ヨハネ13:34-35, 15:12, 17)
5. 使徒的な証しを通して、敵対する世界に対する私たちの中の神の愛 (ヨハネ13:35; 14:12; 15:18-27; 16:8-9)

D. 使徒たちの証しを通して表された世界に対する神の愛は、苦しみを共にすることによって表現されました。ペテロは自分の命を捨てたいと願いましたが、イエスは、神にアクセスするためには、イエスの血だけがそれを成し遂げることができると言われました。しかし、イエスは、ペテロが後にイエスの苦難の道をたどることを預言されました。終末の教会は、敵対する世界に手を差し伸べ、神の共同体に迎え入れるために、苦しみの交わりに入るのです。

20 もしべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。(ヨハネ15:20)

14 もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださいからです。(1ペテロ4:14)

II. 単一行動をとる神ご自身の共同体

A. ロバート・カイザーは、著書「破天荒なヨハネの福音書」の中で、三位一体を「単一行動をとる神ご自身の共同体」と呼んでいます。これは、唯一である三位一体の神が共同体として住まれ、各神格はそれぞれ明確な役割を持ちながらも、神の計画の実行と行動においては単一であるという真理を指しています。ヨハネ13-17章で、イエスは三位一体を私たちの模範、源、報い、そして運命として深く親しんで歩む方法を説いています。

20 その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。(ヨハネ 14:20)

21 それは、父よ。あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。(ヨハネ17:21)

34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネ13:34)

9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。(ヨハネ15:9)

B. ヨハネ13-17章、上の部屋の談話は、互いに深く結びついています。ヨハネ13-14章でのイエスが過ごされた上の部屋の談話での時間は、15-17章での彼の教えとつながっているのです。

C. ヨハネ17章は、イエスの祭司の祈りとして、神に属し、神を完全に愛し、一つとされた愛で互いに深く関わり合い、イエスの福音を地上に伝える信仰の証人となる、神の家族としての教会の輝かしい運命を預言しています。ヨハネ13章は、キリストが私たちを愛してくださったように、私たちも愛することが求められていることを教えています。

D. ヨハネ14章では、イエスの十字架上の死により、私たちが霊的一致を通して父なる神の前に完全にアクセスできるようになることを弟子たちに教えています。霊的な結びつきを通して、父の恵みと力が私たちの心の中に解放され、求められていることが実現するのです。ヨハネ15章はイエスが弟子たちに、実を結ぶためにはその関係に積極的に関わる(留まる)ことが不可欠であると指導しています(ヨハネ13:34-35、14:12、27; 15:4、11-12、27; 16:1、33; 17:20-26)。ヨハネ16章は、敵対する世界に対して、教会が神の愛の証しとしてどのように機能すべきかを強調しています。

E. 三位一体は、この談話の各章に見られますが、各章において、各神格が他よりも際立っています。各神格は、教会をその運命に導くための特定の役割を持っています。ヨハネ14章は父の役割、ヨハネ15章は御子の役割、ヨハネ16章は御霊の役割を示しています。

F. ヨハネ15章では、勝利と活気に満ちたクリスチャン生活の鍵である「留まること」に焦点が当てられています。私たちが結ぶべき実にはいくつかの要素がありますが、文脈上、私たちが結ぶべき第一の実とは、私たちの心における神の超自然的な働き of 究極的な内的・外的現れである「愛」なのです。イエスは実を結ぶこと(15:1、4-5、8)を、「互いに愛し合うこと」(15:17)と主の命令を守ること(15:10-12)に結びつけています。イエスはご自分の民に、ご自分が愛したように、互いに愛し合うようにと呼びかけられました(13:34; 15:12-13; 17:21)。これには敵を愛することも含まれます(15:17-18)。ヨハネ13:34の愛するという要求は、イエスとの交りを通してのみ可能なのです。

34 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒め(15:17)です。あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したよう

に、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

(ヨハネ13:34-35)

8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。17 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。(ヨハネ15:8、17)

III. 真のぶどうの木、ぶどう園の管理者、そしてイスラエル

A. ヨハネの福音書では、7つの「わたしは...である」の文章のうち、15章1節が最後の記述となっています。これらの記述は、イエスが贖われた人々との相互作用の本質を、イエスの神性(出エジプト3:14)と結びつけた自己啓示です。(ヨハネ 6:35、41、48、51; 8:12、9、5; 10:7、9、11、14; 11:25; 14:6; 15:1、5参照)

B. イエスは、ご自分を真のぶどうの木と定義され、私たち枝がつながる命の源であり、そのつながりなしには実を結ぶことができないと語られました。イエスはぶどうの木として、命の源であり、実りあるクリスチャン生活の支えとなるのです。この「ぶどうの木」としてのイエスの啓示には、個人的、共同体的、そして終末論的な意味があるのです。

C. イエスを真のぶどうの木と理解することは偶然ではなく、イスラエルのメシア、また命の源としてのイエスの使命を指しています(詩篇80:8-9; イザヤ 5:1-7; 27:2-6; エレミヤ 2:21; エズラ 15:1-8; 19:10-14; ホセア 10:1)。イスラエルはぶどうの木のようにエジプトから出て(詩80:8-9)、一貫して主の命令に従わず(ヨハネ15:2、5)、その結果、命を落とし、枯れ、裁きに焼かれて終わりました(15:6)。真のぶどうの木であるイエスは、イスラエルのメシアとしての希望として、また神の栄光が地に満ち溢れ、世界中にぶどう園となる希望として、ますます啓示されていくでしょう。

D. イエスは、真のぶどうの木としてイスラエルを救い出し、忠実に従えるように、真の命の源となるために来られます(イザヤ1:26; ザカリヤ8:3)。彼はイスラエルを偽りの源から救い出すために来られました。モーセは、イスラエルがソドムのぶどうの木という別の命の源につながっていると民に言いました(申命記32:32)。

32「彼らのぶどうはソドムのぶどう(イザ1:7-9)、32 ああ、彼らのぶどうの木は、ソドムのぶどうの木から、ゴモラのぶどう畑からのもの。彼らのぶどうは毒ぶどう、そのふさは苦みがある。33 そのぶどう酒は蛇の毒、コブラの恐ろしい毒である。(申命記32:32-33)

7あなたがたの国は荒れ果てている。あなたがたの町々は火で焼かれ、畑は、あなたがたの前で、他国人が食い荒らし、他国人の破滅にも似て荒れ果てている。8しかし、シオンの娘は残された。あたかもぶどう畑の小屋のように、きゅうり畑の番小屋のように、包囲された町のように。9もしも、万軍の主が、少しの生き残りの者を私たちに残されなかったら、私たちもソドムのようになり、ゴモラと同じようになっていた。(イザヤ1:7-9)

8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。(黙示録11:8)

E. イエスは弟子たちに、父がぶどうの木の管理者であると言われました。その約束通り、イスラエルの国家維持と発展、実りは、御父の指導の下で行われます。

2 その日、美しいぶどう畑、これについて歌え。3 わたし、主は、それを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも、それをそこなわないように、夜も昼もこれを見守っている。

4 わたしはもう怒らない。もしも、いばらとおどろが、わたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。5 しかし、もし、わたしのとりでにたよりたければ、わたしと和を結ぶがよい。和をわたしと結ぶがよい。6 時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面に実を満たす。(イザヤ27:2-6)

F. 次の時代、イエスが地上の支配者として戻ってこられる時(ヘブル2:5)、呪いを解き放ち、地球をエデンの園の祝福に戻されます(ヘブル4:6-9)。罪の「呪い」は一瞬ではなく、徐々に解かれていくでしょう。

1 荒野と砂漠は楽しみ、荒れ地は喜び、サルランのように花を咲かせる。2 盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。レバノンの栄光と、カルメルやシャロンの威光をこれに賜るので、彼らは主の栄光、私たちの神の威光を見る。(イザヤ35:1-2)

IV. ぶどうの木に留まること

A. ヨハネ15章は、聖書の中でも特に重要な箇所の一つです。神と対話すること、そしてそれがなぜ不可欠なのかについて、最も明確な教えの一つです。多くの意味で、この箇所はイエスが「わたしはいのちである」という自己啓示をより深く説いたものです。ぶどうの木であるイエスは、命の源なのです。

20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ2:20)

B. 生命は抽象的な概念になりかねません。生命を持つということは、機能し、変化し、維持し、再生する能力と性能を持つということです。生命は肉体的に体験するものですが、私たちは霊と魂でも経験するようにできています。しかし、キリストの前では、私たちは死んでいるのです。

4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。(エペソ2:4-5)

C. ブドウの木が実り豊かに成長するためのもう一つの重要な要素は、ブドウの農夫(父)の役割です。ぶどう園の農夫は、ぶどう園の剪定、養育、発展に責任を負います。ぶどうの木(イエス)は命を与え、ぶどう園の農夫(父)は剪定をします。

D. 剪定とは、成長、発展、実りをさらに促進するために、枯れた部分を刈り込み、きれいにし、取り除くことです。父なる神は、ぶどう園の農夫として剪定をされます。これは、父が私たちの人生に直接、巧みに、そして密接に関わっておられることを語っています。

E. すべての信者は、実りある人生を送るように召されています。イエスは、実を結ぶことの重要性を力説しています。イエスは、実を結ばない人生は無意味であり、裁きを受けると警告しています(15:2、6)。このことは、プロセスの重要性を告げています。

6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せて集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。(ヨハネ15:6)

9 ...絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。10 また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。(コロサイ1:9-10)

F. ぶどうの木に留まり、実を結ぶようにという呼びかけは、十字架によってすでに主の前に聖くなったという確信に根ざしています。留まるというプロセスで、受け入れられるのではなく、清められ(ヨハネ13:10、15:3、13)、受け入れられ(ヨハネ15:16)、愛されている(ヨハネ15:9)からこそ、受け入れられるのです。

G. イエスが要求される実とは、単に人間的により良いバージョンになることや道徳的向上ではなく、深い内なる三位一体の交わりから来る内面的な質であり、私たちを通して互いに、また世界に向かって表わされるものです。イエスが求めていることは、キリストに留まる生活なしには不可能です。留まるとは、キリストと対話することによって、キリストのいのちを積極的に受け入れ、経験することです。

4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。... 5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです(ヨハネ15:4-5)。